

今後の 展 望	【地元ニーズや課題のくみ取りとそれらに対応するサポートの提供】 地元地域との一層のつながりがづくりや連携・協働の拡充に向けて、地元ニーズの把握や抱えている課題の掘り起こしを丁寧に進め、それらニーズに応え、課題解決の一助となるサポートを考え、実行していくことが大切である。 地元ニーズの把握や課題の掘り起こしには、ヒアリングやアンケートといった従来型の手法もあるが、これまでに築いてきたつながりのなかで、日常の対話を通じたニーズの把握や課題の掘り起こしが、より核心的なニーズや課題に近づける場合が多い。
今後の 展 望	小さな事業連携を通じた打ち合わせや意見交換などの機会、それら機会の日程調整などを通じた出会いの場を活かし、きめ細かなニーズや課題の把握への試みを進めていく。 【防災・減災関連のネットワークと知識・情報の持続拡充】 この3年間で形成した防災・減災関連のネットワークは、現場で多様な人たちと向き合い、良質なネットワークを駆使しながら地道に活動を続ける実践者や研究者を中心に、構築できてきた。また、そうした実践者や研究者などには、空堀商店街界隈やそこの減災の取り組みに興味や関心を持ってもらえることも多い。 さらに、そうした実践者や研究者を通じて得られてきた基礎知識や基本情報は、空堀の実情にも適合し、今後の活動に活かせるものも多い。 そうしたネットワークと知識・情報を、減退させることなく継承し、より拡充させていく取り組みを図っていくことが肝要である。今後は、今までであった実践者や研究者とのつながりも持続させながら、さらなる出会いの機会を設けながら、ネットワークとそれを通じた知識・情報の拡充に努めていく。 【からほり倶楽部内外での減災活動の継承】 からほり倶楽部では今秋世代交代を予定しているが、からほり倶楽部内でのロジモク減災の活動も、その継続是非は新世代に委ねられることになる。 ロジモク減災の理念や目的、戦略をより確実に継承・発展させていくためには、からほり倶楽部の枠を超えた減災活動の場の構築も必要になってくると考えられる。 これまでの活動での協働・協力先の組織や人材とも連携しながら、新たな活動の場の構築を模索し、からほり倶楽部内でのロジモク減災の取り組みが継続・発展していく場合には、ネットワークや知識・情報の共有を図りながら、ともに地域の防災力向上に取り組んでいく環境を形成していく。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。